

こころ つながり

2022年
冬

羽吹 さゆり様コラム

人生100年時代の親子の暮らし方 ～介護のある暮らしに備える～

もみの樹・練馬

リニューアルした中庭で、素敵な思い出を作り続けます！

もみの樹・渋谷本町

日本の原風景と展示コーナーで
“楽”しいが集まる空間作り。

ネオ・サミット茅ヶ崎

より充実したウッドデッキやラウンジで
思い思いのくつろぎ時間を

ネオ・サミット湯河原

ご入居者お一人おひとりに より豊かで快適な毎日を

感動プロジェクト 認知症ケア

スペシャリストを育成し、認知症ケアの向上を。

もみの樹 4館合同「介護スタッフ座談会」～事例報告会①～

6館合同旅行プロジェクト もみの樹・横浜鶴見

秋のニュージーランド・オンラインツアー

感動プロジェクト オンリーワン

もみの樹・杉並

曾孫に会いたい! 会わせたい!

かずら橋

秘境“祖谷”にあるかずら橋は日本三奇橋のひとつとして知られ、重さ約5トンにもなるシラクチカズラで作られています。3年毎に架け替えが行なわれており、国指定重要有形民俗文化財にも指定されています。

「こころつながり」

人と地域、そして心豊かな暮らしへの架け橋を築く

大和ハウスライフサポート。

そこには、ご入居者やそのご家族の

さまざまな夢や願いの実現をお手伝いしたいとの

想いが込められています。



0120-07-4165

受付時間：午前9時～午後5時



介護付有料老人ホーム
もみの樹・練馬
東京都練馬区平和台2-50-1



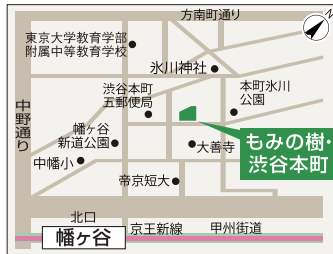
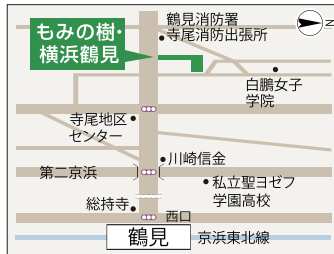
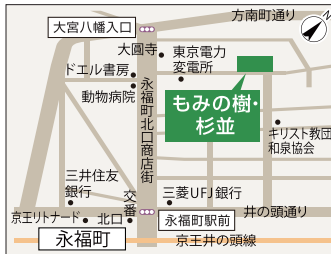
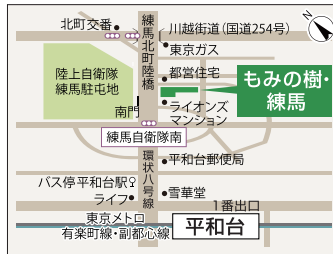
介護付有料老人ホーム
もみの樹・杉並
東京都杉並区和泉3-52-8



介護付有料老人ホーム
もみの樹・横浜鶴見
神奈川県横浜市鶴見区北寺尾4-3-1



介護付有料老人ホーム
もみの樹・渋谷本町
東京都渋谷区本町5-25-1



介護付有料老人ホーム・住宅型有料老人ホーム
ネオ・サミット茅ヶ崎
神奈川県茅ヶ崎市東海岸南4-3-3



介護付有料老人ホーム
ネオ・サミット湯河原
静岡県熱海市泉17-2



Daiwa Life Support
大和ハウスグループ

大和ハウスライフサポート株式会社

東京都港区三田3丁目1番7号 三田東宝ビル6階 〒108-0073 Tel 03-3456-4165(代表) Fax 03-3456-4175
当社は大和ハウス工業(株)の100%出資による子会社です。

大和ハウスグループの経営のシンボルである「エンドレスハート」は、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
© Copyright 2022 DAIWA HOUSE INDUSTRY CO.,LTD. All rights reserved.

🌱 We Build ECO | 森林育成紙TM使用

人生100年時代の親子の暮らし方

「介護のある暮らしに備える」

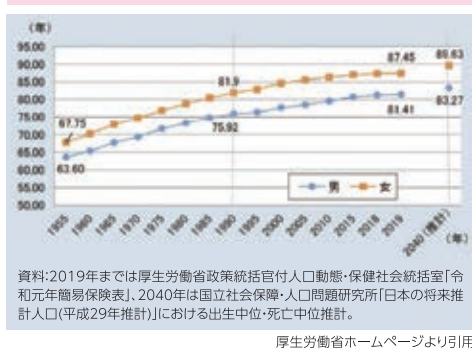
大手企業様や、内閣府の金融庁・警視庁、公立の小中学校の職員様に向けて、介護保険改正の動向、介護DX、介護保険外サービスなど多種多様についての最新



の情報をお伝えしながら、今年からは介護者の「介護予防」「フレイル予防」についてもお話しさせていただいており、2022年4月～12月の間に、10回以上もの「家族介護セミナー」に登壇いたしました。

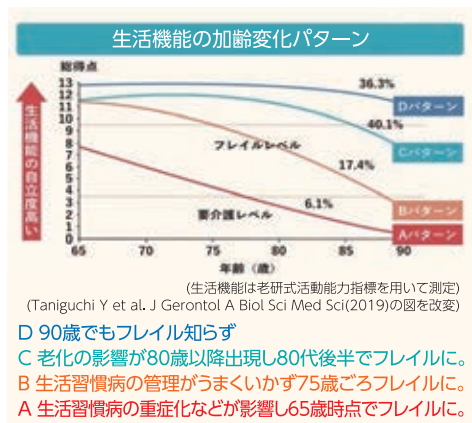
私共は、「家族介護相談」の窓口も担っているのですが、そこでお受けする相談内容や、介護の現場研修を経て、超高齢化社会がさらに現実的なものとなってきたことを実感したことがきっかけでした。

平均寿命の推移



老化について知っておくこと

フレイルになる時期には個人差がある



そこで、さらなる課題として浮かび上がるのが、お子さんである介護者の方も高齢化しているということ。老老介護・認認介護・多重介護・老孫介護・さらには



羽吹 さゆり

（有羽吹デザイン事務所
介護事業部アモールフアティ代表
アモールフアティスクール長(2021年8月)）
介護福祉士/介護支援専門員/介護技術指導員/日本語教員/
社会科教員/介護職員実務者教員/社会福祉士主任
著書:「親をキライにならないための家族介護のススメ」(2020年8月)

100歳以上の方が昨年は9万人を超えました。さらに、90歳以上の方は250万人以上。勿論、ご長命で健康

近年では「ダブルケアラー」「ヤングケアラー」という新しい家族介護者のカタチも存在して増加傾向にあると言われています。

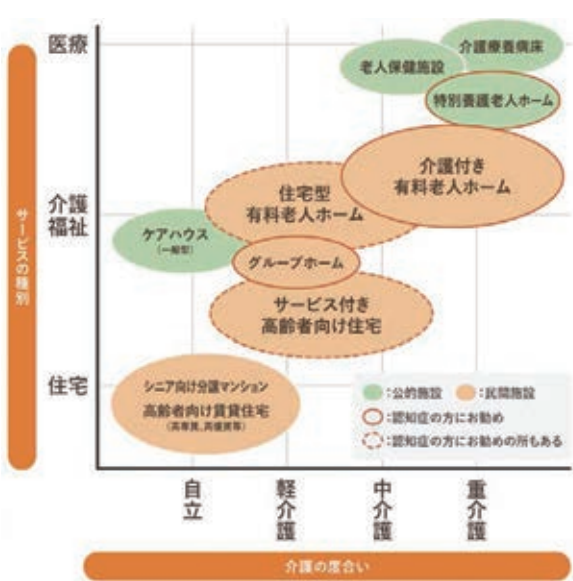
老後は「子どもが世話をしてくれる」から「自分の老後の暮らしは自分で決める時代」にいいよ本格的に突入したと言えるのではないのでしょうか。



私のところの「家族介護相談」窓口に来られた方の例をご紹介します。

●ご相談① 老老介護

70代前半男性。
今から15年ほど前に母親を有料老人ホームに入居させた。当時は「人生80年時代」と言われていたので、それを前提に親の預貯金や年金を考えて入居に至った。親が90歳を超え、資金繰りが難しくなったので、子どもたちで資金を調達して親を支えていた。
しかし、子ども世代もまた、介護を受けながらの暮らしになり、親への資金援助がままならなくなってきた。今後の親の暮らしが不安。



●ご相談② 多重介護
30代前半の女性。両親は幼い頃に離婚、一人っ子。
50代の母親は、70代の祖母の在宅介護を行っている。曾祖母100歳は有料老人ホームに入居中(※50代の母親が入居中のキーパーソンになっていた)。50代の母親が乳がんになり治療に専念しなくてはならず、自分が祖母の在宅介護、曾祖母の介護のキーパーソンになった。母親の看病も含め、3人の介護を一人で乗り切れるか不安。
昨今では、以上のようなご相談を多く耳にし、超高齢化社会ゆえの課題が浮き彫りになってきたことを実感しています。

人は必ず親から生まれてきます。また、人は必ず、多かれ少なかれ介護を受けて最期を迎えます。親の暮らしと自分の暮らしの両輪をうまく回し続けるためには、「元氣なうちから親子で「対話」をしておくことは必須なのです。

介護は情報戦です。たくさんアンテナを張り巡らしていきましょう。しかし、世の中にはたくさん情報が入り混ざっています。確かな情報を取りに行くことこそが、家族の役目とも言えるかもしれません。

さらに、情報を受け取りつつ、「戦略」を立てることも重要。①対話②情報③お金について、それぞれのプランを立てていきましょう。

精神的負担・肉体的負担・金銭的負担をどれだけ軽減できるか、戦略を立てるか立てないかは、親子ともども、迎える老後の暮らしの質が変わってきます。

日本人は親子間で「お金の話」をするのがとても苦手な国民だと言われることがあるようです。ですが、超高齢化社会には、必ず「介護をされながらの暮らし」が待っているのです。「終活」も勿論大事ですが、私は「介活」が、より良い老後暮らしを暮らすために、何より重要ではないかと考えます。

20th
ANNIVERSARY

もみの樹・練馬

リニューアルした中庭で、
素敵な思い出を作り続けます！

癒しをもたらす庭園が誕生

もみの樹・練馬では開設20周年を迎え、1階の談話コーナーをトレーニングルームに、中庭をより自然や癒しを感じていただける空間にリニューアルしました。中庭には「五感」をテーマに草花を植え、噴水や滝を設け、水中に照明器具を取り付けました。

以前から中庭は、ご入居者とご家族に散歩やイベントでご利用いただいていたが、コロナ禍で外出自粛を要請されても、敷地内で会話やお食事をよりお楽しみいただける、くつろぎ空間に生まれ変わりました。

今後もお花を増やし、五感で季節を感じられる環境作りを進めていきます。



20周年記念の植樹式を開催

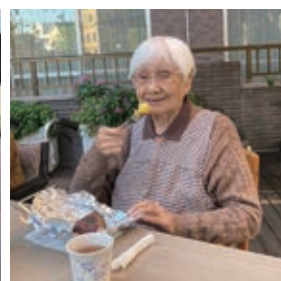
秋晴れの10月4日、リニューアルした中庭で当社社長と役員のほか、ご入居者にもご参加いただき植樹式を開催しました。ご入居者にはスタッフが付き添い、盛り土をしていただきました。

これから30年、40年、50年と、もみの樹・練馬の歴史をこの記念樹とご入居者、ご家族、スタッフ、関係者の皆様と一緒に刻んでいきたいと思っています。

焼き芋ホクホク楽しいお茶会

改装後、お茶の時間を中庭で過ごされる方が増えています。

先日中庭で行ったお茶会も、多くの方にご参加いただきました。スタッフの提案で地域農園の採りたてさつま芋を用意して焼き芋をしました。焼き芋作りに詳しいご入居者から「さつま芋に濡らした新聞紙を巻いて、その上からアルミホイルを巻くと良いよ」とアドバイスをいただきましたので、美味しく焼きあがりました。アツアツの焼き芋を食べながら「甘いね」「次は何を食べようかしら」と会話も弾み、楽しい時間となりました。

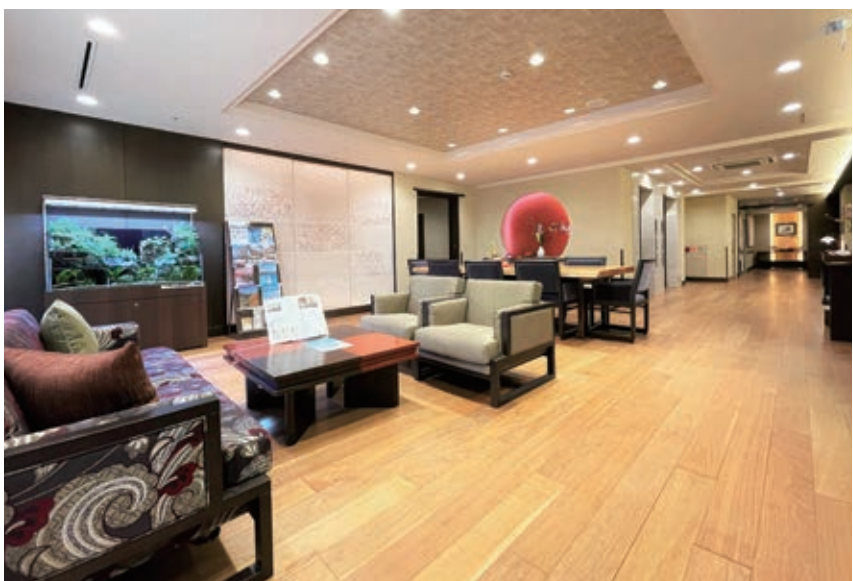


もみの樹・渋谷本町

日本の原風景と展示コーナーで
楽しいが集まる空間作り。

★水槽を囲んで心潤うひとときを

もみの樹・渋谷本町では1階フロアを楽しいが集まる空間にするために、2022年2月よりリニューアルを行なってきました。



入り口を入った正面に、日本の原風景の小川をイメージした水槽を展示しています。優雅に水が流れ落ちる滝や、ライトに照らされ鮮やかに映える緑と心地よい流水の調べが、その場に集う人々の心を穏やかにしてくれます。水中に目を向けると、オイカワやアブラハヤ、ウグイ、ドジョウなどの在来種を主とした魚たちが泳いでいます。

毎日10時と16時には、水面に霧を発生させて、幻想的な雰囲気演出しています。

ご入居者からも大好評で、日課のように足を運んでくださる方、機能訓練室での自主トレーニングのついでに立ち寄られる方、面会時にご家族と餌やりを楽しまれる方、皆様が思い思いに観賞されています。



★展示コーナーが憩いの場所に

日常生活の中でちょっとした楽しみや喜びを感じられる場所をご提供できるよう、機能訓練室の横にある廊下のスペースを展示コーナーに改修しました。

日々のアクティビティで制作された作品や、過去にご入居者が作られた思い出の品などを展示しており、こちらでも面会時やリハビリ、自主トレーニングの際にお立ち寄りいただいています。

皆様「私が作ったものはこれよ！」「私のもあるわ！」と、会話を弾ませながら観覧されており、ご入居者、ご家族、スタッフが集い語らう憩いの場の一つになっています。

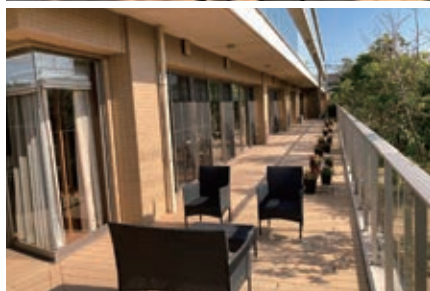


ネオ・サミット
茅ヶ崎

より充実したウッドデッキやラウンジで 思い思いのくつろぎ時間を

■ウッドデッキを緑豊かな憩いの場に

住宅棟のダイニング奥にあるウッドデッキにガーデンテーブルやチェア、バラソルを新設しました。ダイニング内には本格コーヒーの自動販売機を導入し、花や緑を楽しみながら、くつろぎのカフェタイムをお過ごしいただける空間を創出しました。



いただけたらと思います。また、お部屋でじっくり読みたい方のために本の貸し出しも可能です。

■外食気分を叶えたウッドデッキ

オンラインワンプロジェクト

「あきらめていたご入居者の『夢』を実現する」より昨年、住宅棟から介護棟にお住み替えされたK様からの「もっと外食したい」というご要望を受け、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきた時期に、K様馴染みのお寿司屋さんに出勤を注文することになりました。

お天気の良い日、新しいウッドデッキに食卓を設け、K様の趣味であった風景写真を飾り、ハワイアン音楽を流し、レストランのような雰囲気を出しました。

また、お話好きなK様のご希望で、館長



とコンタクトパーソン（K様担当の介護スタッフ）である主任も正装して一緒に食事と会話を楽しませていただきました。偶然、K様が住宅棟にお住まいの頃に親しくされていたご入居者も通りかかり、歓談され、笑顔あふれる場となりました。

K様からは「美味しかった。こんな場所でも食事したいわ」と、食事にもロケーションにもご満足のお言葉をいただきました。

このウッドデッキを、今後もご入居者の気分転換や交流の場として活用していきたいと思っています。

■ラウンジをライブラリーに模様替え

ラウンジは書籍を大幅に増やし、ブックライブラリーに生まれ変わりました。小説、歴史、美術、旅行、詩などの本から新聞まで、幅広いジャンルを揃えています。同じ趣味の方との談笑の場としてもご利用

ネオ・サミット
湯河原

ご入居者お一人おひとりに より豊かで快適な毎日を

■「お茶会」を通して友人に

2022年11月末約230名のご入居者が生活されているネオ・サミット湯河原では、お一人おひとりのお顔を覚えるだけでも時間がかかってしまうため、少しでも早く馴染んでいただけるよう、新しいご入居者同士の顔合わせの機会を設けています。

秋も深まり始めた10月末、新型コロナウイルスの影響で自粛していたお茶会を約1年ぶりに開催し、顔合わせの場としました。今回は18名の皆様にご参加いただき、湯河原町で人気の和菓子屋「味楽庵」に赴き、和菓子の手作り体験をしました。皆様、感染対策をしっかりと行い、職人さんの指導のもと、練り切りを丸め、餡子を包み、竹串で模様をつけていく作業を童心に帰って楽しませていました。



形も黄色と緑のグラデーションも様々で「イチヨウの葉っぱがグロブみたい」と笑いが起きる場面もありました。

作業後、「味楽庵」名物のパリパリの皮とみかん風味の餡子が絶妙な「みかん最中」を召し上がっていただき、作った練り切りはお土産としてバックに詰めて体験は終了しました。

初めは緊張気味だった方も、体験を通してすっかり打ち解けた様子でした。お隣やお向かい同士で手作り和菓子を見せ合い、笑い合い、楽しく歓談される姿が印象的でした。

■暮らしを彩るイベント多数

ネオ・サミット湯河原では、一年を通して多彩なイベントを日々開催しています。館内で行うコンサートやセミナー、バス旅行、夏祭りなど、季節に合わせた催しには、ご入居者に彩りのある毎日を過ごしていただきたいというスタッフの思いが込められています。

今後、ご入居者からのご要望も取り入れつつ、驚きと楽しさのある行事を開催する予定です。



感動プロジェクト 認知症ケア

スペシャリストを育成し、認知症ケアの向上を。

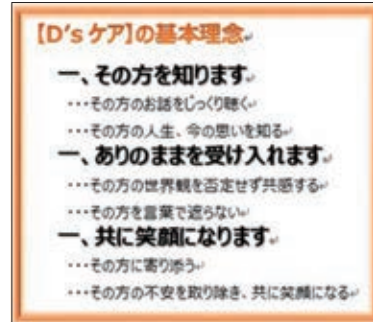
私たちは、認知症ケアの専門家の育成やスキルアップをサポートする制度を整え、より質の高いケアをご提供できるよう努めています。

認知症ケアプロジェクトとは

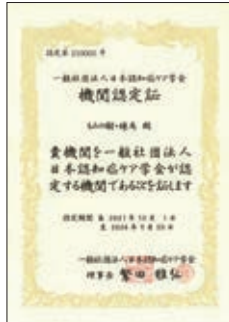
認知症ケアプロジェクトは、感動プロジェクトの一つとして2014年11月に発足しました。私たちが行う認知症ケアを「Dementia（認知症）」と「ダイワハウスライフサポート」の頭文字を取った「D'sケア」とし、その基本理念に則って日々のケアを実践しています。

これまでの取り組みとして、認知症ケアマニュアルの作成や支援事例の検討・共有などを行ってきました。

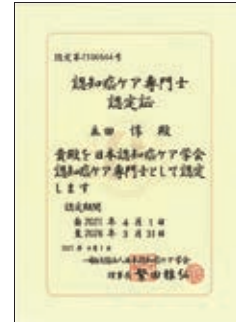
2019年からは日本認知症ケア学会の「認定施設」を目標に認知症ケア専門士の取得推進や、オンラインセミナー「SHIGETAの学校」の受講を推奨し、社外に目を向けた活動もしています。



当社が掲げる「D'sケア」の基本理念



日本認知症ケア学会機関認定証



日本認知症ケア専門士認定証

知識と技術を備えた「D'sケアマスター」を育成

認知症ケアプロジェクトでは、認知症ケアのスペシャリストを育成すべく「マスター制度」を採用しています。

認知症介護実践者研修修了者を対象に社内サービスチェックを実施し、合格すると「D'sケアマスター」（以下Dマスター）となります。Dマスターは各館における認知症ケアの模範となり、スタッフへの認知症ケアのアドバイスや支援事例の立案実施の補助を行います。

2018年10月にDマスター第1号が誕生し、2022年10月現在、



D'sケアマスター認定証

D'sケアマスター紹介



もみの樹・渋谷本町
山本 弘樹 (サブリーダー)

D'sケアマスター紹介



企画部
立田 惇 (本社事務局)

全6館で行う毎月の定例会で、D'sケアの基本理念を軸に、認知症の方でも安心して穏やかに生活していただけるよう支援事例の検討・共有を図っています。

より適切なケアを提供するために、スタッフの知識の醸成の一貫として、認知症介護実践者研修や認知症介護実践リーダー研修の資格取得、独自の認定制度であるD'sケアマスター制度の創設をしています。また、日本認知症ケア学会と連携し、認定機関の取得や地域活動、認知症ケア専門士の取得推進など、様々な活動に取り組んできました。

2020年度からは、認知症専門医である繁田雅弘先生が学長を務める、「SHIGETAの学校」とも連携を図り、より専門的に認知症について学ぶ機会を設け、スタッフの育成とご入居者にとって、安全で安心な生活のために力を注いでいます。

2025年を目前に控え、ますます認知症の高齢者が増えていくこの時代に、当社はより質の高いケアサービスの提供に努めていきます。



私たちは認知症ケアを行う際「パーソン・セントラード・ケア※」や「ユニチュード※」を理解して認知症ケアに臨んでいます。そして、認知症の方に対して、「大切に思っている」と伝えることを重要視したケアを心がけています。

ご入居者の心に寄り添い、共感し、生活する中での不便や苦悩等の理解を今後も深め、より良い支援をしていきたいと思えます。

※パーソン・セントラード・ケア：認知症の方を一人の人として尊重し、その人の立場に立つて行うケア。

※ユニチュード：知覚・感情・言語を通して「あなた」は大切な存在というメッセージを発信しながら行うケア技法。

もみの樹・杉並所属時代の2018年10月にDマスターの第1号に認定され、その後もみの樹・渋谷本町へ異動し、現在は本社企画部で認知症ケアプロジェクトの活動をサポートしています。

コロナ禍で各館の交流が難しい中、橋渡しになればと、本社所属となった現在も定期的にユニフォームを着用し各館を巡回しています。

今後も左袖のワッペンに恥じぬケアを行い続けます。



「介護スタッフ座談会」事例報告会①

気持ちに寄り添ったケアを通して、快適な生活環境の提供に努めています。

ご入居者に快適にお過ごしいただけるよう日々試行錯誤している介護スタッフに、問題を解決するための取り組み事例について発表していただきました。



昨年度、繁田先生が主催する「SHIGETA認知症ゼミ」を受講し、修了証が授与されました



修了証授与式での一幕

もみの樹では、各館の介護スタッフが定期的に認知症ケアの事例報告会を行い、情報共有や意見・感想を交わしながら研鑽を積んでいます。今回は認知症専門医の繁田先生にご同席いただき、アドバイスや講評をしていただきました。



高澤留美子

看護師・保健師・介護支援専門員・認知症ケア上級専門士。大学病院で看護師として勤務後、介護福祉士養成校の講師に。後に介護会社で運営や教育に携わる。

SHIGETAハウスプロジェクトのスタッフの一員として、第2・4火曜日開催の平塚カフェ（認知症の方とご家族が一緒に参加できるカフェ）を担当しています。

SHIGETAハウスプロジェクト <https://shigetahouse.org/>

先生のご紹介



繁田雅弘

認知症専門医。認知症の方やそのご家族を支え、認知症の啓発活動などを行う「SHIGETAハウスプロジェクト」を運営。著書：「気持ちに楽になる認知症の家族との暮らし方」（2018年 池田書店）ほか

認知症の人に限らず、人の力になるということは難しいことです。こちらは良かれと思ってしたことが相手を傷つけてしまうこともあります。余計なことをしないようにと気遣っていたら、相手は嫌われていると思ってしまうこともあります。こうした行き違いはどのようにしたら減らすことができるのでしょうか。まずはどれだけ相手の気持ちになって考えることができるかではないでしょうか。

どのようにケアをしたら良いか、どのように助けたら良いか、どのようにお世話したら良いかなどと考えるのではなく、自分が認知症でサポートを受けるとしたら、どのような状況ならケアや助けを受け入れることができるか、と考えるのが良いのではないのでしょうか。

排泄ミスを避けたくて…トイレ利用が頻回に。

目標 排泄への意識を下げ、排泄意の訴え回数を減らす。

■概要

ご入居者…M様（100歳）要介護4
身体状態…小児麻痺により歩行不可。耳が遠い。性格…穏やか。他のご入居者との関わりは少ない。趣味…新聞を読むこと。洋裁などの手仕事。改善したい症状…日中常に排泄の訴えが頻回にある。

■取り組み内容

1 クール目は、トイレ回数をカウントし現状を把握しました。そして、新聞や本を提供したり、エプロンたたみやおしぼりの準備をご依頼したり、何か他のことに集中できる状況を作りました。

2 クール目の現在は、1クール目の取り組みを精査し継続しつつ、M様が穏やかに過ごしていただけるように声かけを増やしています。3クール目もより関わりを深めて、M様が安心して過ごしていただける環境を作り、課題の解決に努めていきます。

繁田先生からのアドバイス

人は失敗経験により不安を抱くことがあるので、M様がどんな失敗に対し、どんな不安をお持ちなのか、皆さんで考えてみてはいかがでしょうか。

M様自身も本当は頻回にトイレに行かないほうがいいと思っている可能性もありますよね。迷惑をかけたくないゆえに、行かざる得ない心境になっているのだとしたら、「迷惑なんて気にしなくていい」「スタッフを



座談会風景

いつ呼んでも大丈夫」ということをきちんと伝えて分かってもらうことで、排泄意の訴え回数が減る可能性はあると思いますよ。トイレの個室ですぐにコールボタンを押してしまうのも「もう終わったから早く私のことは済ませて、他の人のことをやってあげて」という思いかもしれません。皆さんで話し合いながら、M様の気持ちへの理解を深めていけば、M様が安心してトイレと付き合えるようになると思います。

M様は以前よりも排泄意を示すことが多くなり、日中、多いと一日に30回程「トイレへ行きたい」と訴えられます。トイレの個室内でもすぐにコールボタンを押されます。車椅子をご利用のM様は自走してトイレに向かわれると、車輪に腕を巻き込んだり、薄い皮膚に内出血を起こしたり、便座への移動時に転倒する危険があるので、その都度付き添わせていただいています。便座に座られても排泄がない時もあります。真意をうかがってみました（間に合わなくて）スタッフに迷惑をかけたくない」というお気持ちが強いようでした。また、臥床中、新聞や本を読んでいる時、レクリエーション中は、あまりトイレへ意識が向かないようです。

生活リズムを整えて、心も暮らしも穏やかに。

事例報告「もみの樹・横浜鶴見」須田祐一朗

目標 生活のリズムを整え、穏やかに過ごしたい。

■概要

ご入居者…A様(96歳) 要介護3
身体状態…膝関節症の痛みあり。シルバーカー利用。
性格…アクティブ。お話好き。
趣味…新聞を読むこと(若い頃はバレーボールや卓球)。
改善したい症状…興奮による立ち上がりや帰宅願望。不眠。

A様は他のご入居者の声が聞こえる、と、立ち上がり「みんなにバカにされている」「こんな場所にいたくない、帰ります」と興奮されたり、不安感を訴え、居室とダイニングを往復されることもあります。転倒リスクが高い方なので見守りが欠かせません。

1日おきに不眠状態になり、臥床を促しても短時間で起き、ベッドに端座位になり転落する危険もあります。

■取り組み内容

A様の生活リズムを整え、穏やかに過ごしていただけるよう、1クール目は、A様のタイミングを優先しつつ、いっしょに何をするかタイムスケジュールを作り、それに沿って誘導しました。

A様はもともと戦争について伝えたいお気持ち強く、取り組み開始時の8月によく放送されていた終戦やウクライナ情勢のニュースを見聞きする度、気持ちの高ぶりが見られました。

不眠についてご家族にうかがったところ、ご自宅でも夜はソファでテレビを見たり、お茶を飲んだりしていることが多かったそうです。そこで2クール目は、不眠時にもご自宅同様にお過ごしいただくようにし、さらにコミュニケーションを増やし安心できる環境を意識しました。徐々にベッドで朝まで寝られる日が増えてきました。

一方、他のご入居者の言動で興奮される状態は続いていたので、3クール目は、コミュニケーションに加え、癒し効果が期待できる赤ちゃんや動物の動画を見ていただき、A様の気持ちが落ち着くよう心がけました。

立ち上がり回数は2クール目に増えましたが、気持ちは安定してきている印象で、不安感の訴え回数は1クール目の開始時より半減しています。

6館合同旅行プロジェクト

もみの樹・横浜鶴見

秋のニュージーランド・オンラインツアー

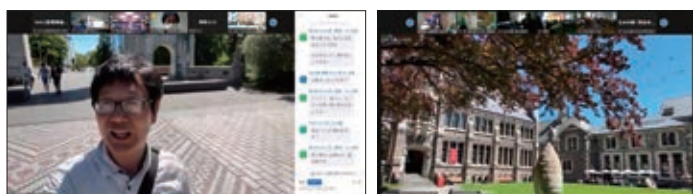


今回の旅行も新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、前々回の京都、前回の小豆島に続きリモートでの開催となりました。行先はグループ会社の(株)伸和エージェンシーからの提案により初の海外となるニュージーランドで、6館合計で71名のご入居者にご参加いただきました。

自然と歴史を巡り散策気分

ツアーの前半はニュージーランド島内各所の動画を見ながら、現地ガイドの方にニュージーランド各地の水河や湖などの観光名所を歴史や文化とともに説明していただきました。

後半はクライストチャーチという街を



ライブ中継で歩きながら、長い歴史を持つ煉瓦造りのカンタベリー博物館、エイボン川沿いのマーケット、地震で倒壊したクライストチャーチ大聖堂などを案内していただきました。途中「気温はどれくらい?」などの質問に答えていただいたり、参加者の中にいらした100歳超の方に因んで、公園内に佇む樹齢100年超の巨木を急遽案内していただくこともありました。

繁田先生からのアドバイス

A様に戦争について語ってもらう機会を設けてみてはいかがでしょうか。何をどう伝えたいのか理解することで、もっとA様を受け止められる気がします。

皆様へのご提案ですが、事例を記録する際、ご入居者の症状だけでなく、なぜその症状が出るのか、原因となり得る理由も関連づけて記入すると良いと思います。その方が辛いこと、側で見ているスタッフが心を痛めていることを意識してまとめると、その方への理解が深まると思いますよ。

次号へ続く

ニュージーランドの味覚も大好評

約1時間半の旅行の後は、館ごとにニュージーランドゆかりの食材を取り入れた洋食のコース料理をご堪能いただきました。「もみの樹・横浜鶴見」(写真)では魚・肉のフルコースでしたが、ほとんどの方が完食され、最後のニュージーランド産アイスクリームをおかわりするご入居者もいらつしました。



次回は来年の春になりますが、その頃には新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、また二泊二日で実際に旅行に行けるようになることを祈るばかりです。

感動プロジェクト

オンリーワン

もみの樹・杉並 K様(90代前半) 要介護4

曾孫に会いたい！ 会わせたい！

背景

コロナ禍で叶わなかった 曾孫様とのご面会

K様は明るくお話し好きで、体調が良い時はご入居者やスタッフとの会話を楽しまれています。スタッフが「目がぱっちりしていて、原節子さんに似ていますね」とお声かけすると、目を大きく開けて「そんなあ、似ていないわよ」と謙遜しながら満面の笑みで応えてくださるお茶目な一面も魅力です。

K様には1年ほど前にお生まれになった曾孫様がいらつしゃいますが、コロナ禍で直接面会できないため、写真を眺めては愛おしそうにされていました。

実施までの取り組み

K様の体調を踏まえて 迅速にプロジェクト始動

一方で、心臓病の悪化や、口腔の潰瘍の肥大化などの進行が見られるようになっており、2021年12月よりお看取り対応に入っていました。お看取り対応開始後は、心臓病による意識障害や意識消失が度々起こるようになったため、できるだけ早く面会できるように、ご家族とスタッフで話し合いを重ねました。

そして、館長に乳児を含むご家族との面会許可をもらい、K様の誕生日であり、コロナ感染対応が緩和された10月にプロジェクトを実施することになりました。



当日の様子

誕生日をお祝いしながら 笑顔あふれる面会に

当日は1階にある10畳ほどのコミュニケーションルームにて、コンタクトパーソン(K様担当の介護スタッフ)同席のもと、曾孫様を交えた7人のご家族でお茶会を開きました。



また、K様は習っていた生花の先生を慕っており「また花を生きたい」とおっしゃっていたので、誕生日プレゼントとして、ご家族でフラワーアレンジメントを作成していただきました。

K様は終始活気のある笑顔を見せてくださり、久しぶりに直接お会いになられたご家族も、団欒のひとときを満喫されていました。



ご家族集合写真

今後に向けて

ご家族の絆を深める 思い出作りをお手伝い

お茶会に加えて、スタッフの提案により皆様でフラワーアレンジメント作成をしていただいたことで、ご家族から「印象に残る思い出になった」というお言葉をいただきました。

今回はプロジェクトの提案から実施日までが短かったので準備不足の面もありましたが、次回はより絆が深まる時間を過ごしていただけるよう、面会場所の雰囲気作りから念入りに準備していきます。

スタッフボイス



もみの樹・杉並
介護スタッフ
稲垣 重美

今回の面会は、本来ならば当たり前のことですが、ご家族の皆様から「やっと会えた」という思いがあふれているようでした。親から子、孫、そして曾孫へ、こころをつなぎ命をつなぐお手伝いができたいと思います。

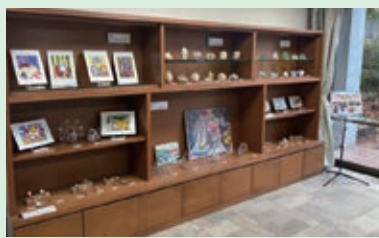
介護職の奥深さと、その誇りを改めて実感しました。

もみの樹・杉並
トピックス

女子美生がおくる
アートの風展



同じ杉並区内にある女子美術大学付属高等部・中学部の皆様が生懸命制作した作品の展示会をもみの樹・杉並1階リビングで開催いたしました。生徒様や保護者の方にも来館いただけたら、ご入居者からは「何十年ぶりでこのような芸術にふれて久しぶりに感動しました」「このような展示会を季節ごとにやってほしい」などのご意見をいただきました。今後もこのような機会を提供できるように努めてまいります。



K様お誕生日 スタッフとご家族

感動プロジェクト「オンリーワン」とは

いくつになっても自分らしく生きることを大切にしてほしい、という願いから企画されました。

ご入居者が人生でやり残したことや、諦めてしまっていることのお手伝いをさせていただき、その人らしさを取り戻す機会を提供しています。

ご入居者に夢の達成に至るまでの目標を持った充実した生活、そして、夢を実現した達成感を味わっていただけるプロジェクトです。